

映画で考える 多様性と共生 / 第1回

『ワンダー 君は太陽』授業ガイド

見た目のちがいと友だち —— 「正しさより、親切を選ぼう。」

教員用・指導資料（対象：小学校高学年以上）

📖 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	見た目のちがいと友だち（「見えない事情」を想像し、親切を「選ぶ」行動につなげる）
教材映画	『ワンダー 君は太陽』（原題 Wonder／2017年・アメリカ／監督：スティーブン・チョボウスキー／原作：R・J・パラシオ）
対象	小学校高学年以上。映倫G。いじめや心ない言葉の場面があるため配慮が必要（下記参照）
時間	標準90分（45分×2）。上映113分。全編視聴も可能だが、厳選クリップ+あらすじ紹介も有効
中心概念	見た目のちがい／視点の入れかえ（家族・友だち）／同調圧力／「正しさ」と「親切」
ねらい	だれにでも外からは見えない事情があることに気づき、親切を具体的な行動として選べるようになる
準備物	児童・生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠️ 見た目のちがい・いじめの扱い（重要）

本作は、顔に障害のある少年が学校でいじめや心ない言葉を受ける場面を含みます（直接的な暴力の描写はほとんどありません）。

- 顔や体にちがいのある児童・生徒、いじめの経験がある児童・生徒がいる可能性に配慮し、**特定の子どもに注目が集まらない**ようにする。
- オギーを「かわいそうな人」としてだけ描かないよう、**家族や友だちの視点**も扱う。
- 「自分がいじめた／いじめられた経験」の発表は**強制しない**。書く場合も書ける範囲で。
- オギーの障害（顔の形成にかかわる生まれつきの障害）を、からかいや詮索の話題にしない。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 作品の見どころ（予備知識）

視点が入れかわる物語

この映画は、オギーだけでなく、姉のヴィア、友だちのジャック、ヴィアの親友ミランダなど、周りの人たちの目からも物語が語られます。だれもが外からは見えない悩みを抱えていることが、視点の入れかえで伝わる構成です。

原作のきっかけ

原作者R・J・パラシオは、アイスクリーム屋さんで顔に障害のある子と出会ったとき、自分の子どもが怖がって泣いてしまい、うまく対応できなかった経験がきっかけで小説を書いたと語っています。「迎える側」の戸惑いから生まれた物語でもあります。

💡 「親切を選ぶ」という言葉

担任のブラウン先生が最初に黒板に書く格言は「正しいことと親切なこと、どちらかを選ぶときは、親切なほうを選ぶ」という内容です。親切を「気持ち」ではなく「選ぶ行動」として扱うと、具体的な行動目標につなげやすくなります。

見た目のちがいと向き合う4つの視点（板書用）

① じろじろ見ない、無視しない

見た目より、その人の話や好きなことに目を向ける。

② 見えない事情を想像する

オギーにも、姉にも、友だちにも、それぞれの悩みがある。

③ 周りに流されない

みんなに合わせた言葉が、大切な人を傷つけることがある。

④ 親切は「選ぶ」もの

親切は、気持ちだけでなく行動として選べる。

🎯 この授業の到達目標

登場人物それぞれの「見えない事情」を映画の場面から読み取り、親切を選ぶための具体的な行動を1つ以上挙げられる。

4 90分授業の流れ（45分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-8分	導入	「初めて会う人と友だちになるとき、何から始める？」と問う。
8-15分	作品紹介	あらすじと「視点が入れかわる」構成を紹介。オギーの障害を詮索しないことも確認。
15-45分	映画を観る①	登校初日～ジャックとの友情の場面（クリップ）。
45-65分	映画を観る②	姉ヴィアの視点の場面、ジャックの本音を聞いてしまう場面（クリップ）。
65-82分	ワーク記入	4つの視点をもとに、「親切を選ぶ」行動を考える。
82-90分	共有・まとめ	板書「正しさより、親切を選ぼう。」で締める。

🌱 まとめ

映画の最後まで、オギーの顔は変わりません。変わっていくのは、周りの人たちの見方です。「見えない事情」を想像すること、そして親切を行動として選ぶこと——クラスの中でもすぐに実践できる学びです。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Wonder／ワンダー 君は太陽
製作年・国	2017年・アメリカ。上映113分。日本公開：2018年6月。映倫：G
監督・脚本	スティーブン・チョボウスキー（『ウォールフラワー』）
原作	R・J・パラシオの小説『ワンダー』
評価	アカデミー賞 メイクアップ&ヘアスタイリング賞ノミネート

主なキャストと役柄

- ジェイクブ・トレンブレイ（オギー役）：特殊メイクで顔の障害を表現し、細やかな感情を演じた。
- ジュリア・ロバーツ／オーウェン・ウィルソン（母イザベル／父ネート役）：ユーモアと愛情でオギーを支える両親。
- ダビッド・ディグス（ブラウン先生役）：毎月「格言」を黒板に書く担任の先生。

宇宙飛行士のヘルメット

人の目が怖いオギーは、外では宇宙飛行士のヘルメットをかぶるのが大好きです。ヘルメットを「かぶる／ぬぐ」場面は、オギーの心の変化を読み取る手がかりになります。

※上記の事実は公開情報（映画.com、MOVIE WALKER PRESS等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. ジャックは、なぜオギーを傷つける言葉を言ってしまったのだろう？

→ 周りに合わせたい気持ち（同調圧力）に気づかせる。ジャックを一方的に責める方向にしない。

Q. 姉のヴィアの目から見ると、家族はどう見えた？

→ オギーだけでなく、家族それぞれに「見えない事情」があることに注目させる。

Q. 「正しいこと」と「親切なこと」がぶつかるのは、どんな場面？

→ 身近な例（まちがいの指摘、ルールと気持ち）で考えさせる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 登場人物それぞれの「見えない事情」を、映画の場面を根拠に読み取れているか。
- 同調圧力など、人が傷つける言葉を言うってしまう理由を考えられているか。
- 「親切を選ぶ」ための具体的な行動を挙げられているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。特定の子どもに注目が集まらないよう配慮する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	ワンダー 君は太陽	見た目のちがいと友だち	小学校高学年～
2	映画 聲の形	いじめと、向き合うこと	中学生～
3	ズートピア	偏見とステレオタイプ	小学生～
4	ドリーム	人種と性別の壁を越える	小学校高学年～
5	最強のふたり	障害と介助、対等な関係	中学生～
6	グリーンブック	差別と旅、友情	中学生～
7	リトル・ダンサー	「らしさ」の思い込み	小学校高学年～
8	パディントン	よそ者を受け入れる社会	小学生～

8 参考資料（主な出典）

ワンダー 君は太陽 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

ワンダー 君は太陽 作品情報（MOVIE WALKER PRESS） <https://press.mviewwalker.jp/mv64603/>

作品：映画『ワンダー 君は太陽』（2017年、監督スティーブン・チョボウスキー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。